

2022年「日本ITU協会賞」受賞

2022年5月17日に開催された「第54回世界情報社会・電気通信日のつどい」において、ネットワーク開発部の秋山 晋作、6G-IOWN推進部の熊谷 慎也、無線アクセス開発部の下平 英和、電波企画室の谷田 尚子が日本ITU協会賞「奨励賞」を受賞しました。

日本ITU協会賞は、電気通信／ICTと放送分野に関する国際標準化や国際協力の諸活動において、これまでに優れた功績を遂げられた者ならびに今後の貢献が期待される者に贈呈されるものです。奨励賞は、世界情報社会サミットにおける基本宣言および行動計画の実現および国際標準化、国際協力に関するITU (International Telecommunication Union) などの活動または我が国におけるITUなどに関連する諸活動にすでに参加し、今後これらの領域において継続して寄与することが期待される者に贈られます。

秋山は、ネットワーク運用自動化の標準化を検討するETSI ZSM (European Telecommunications Standards Institute Zero touch network & Service Management) において、技術仕様策定に貢献しました。AIを活用した故障予知や運用自動化を実現するクローズドループ仕様、ネットワークスライスを含むEnd-to-Endサービスのライフサイクルマネジメント仕様の策定への貢献が評価されました。

熊谷は、3GPP標準化において、5G NR (New Radio) のアンライセンス周波数利用技術、産業向

けIoTおよび高信頼低遅延通信技術、簡易化機能端末の技術検討・仕様策定において技術議論を主導するなど、5Gの適用領域を拡大する技術仕様策定への貢献が評価されました。

下平は、移動通信分野において中心的な役割を果たしている標準化団体である3GPPにおいて、NRの技術提案を多数入力するなど、5G高度化の検討を推進しました。また、無線基地局のオープン化を目的とした団体であるO-RAN (Open Radio Access Network) アライアンスにおいて、基地局装置間インタフェースの技術議論を牽引するなど、その仕様拡張に大きく貢献したことが評価されました。

谷田は、ITU-R (International Telecommunication Union-Radio communication sector) 標準化活動に従事し、WP5D (Working Party 5D) 会合では、他業務とIMTの干渉計算パラメータの寄与文書提案とそのプレゼンなどを通してIMT周波数の国際標準化に寄与したことが評価されました。また、ARIB (Association of Radio Industries and Businesses) 在籍中はITU-R WP 5D日本代表団事務局として、国内議論・審議の促進や会合の円滑な運営により、日本のITU-R WP5D活動活性化に貢献したことが評価されました。

本誌に掲載されている社名、製品およびソフトウェア、サービスなどの名称は、各社の商標または登録商標。



(左上から) 秋山, 熊谷, 下平, 谷田